

東駒ヶ岳開山

小仙丈ヶ岳より望む東駒ヶ岳と摩利支天



信州伊那側の開山から
200年の歩みを辿る

200周年

東駒ヶ岳開山 200周年にあたって



文政7年(1824年)に伊那側から東駒ヶ岳への登拝ルートが開かれ、今年でちょうど200年となります。

これまで、2世紀にわたり東駒ヶ岳への登山道を守ってこられました長谷地域の皆様をはじめ、山岳関係者各位に敬意と感謝を申し上げます。

東駒ヶ岳開山200年を振り返ると、行者による信仰の登山に始まり、近代登山の時代を経て、現在では林道バスによる南アルプスクイーンラインにより多くの登山客が訪れるようになりました。

一方で、山岳地帯におけるオーバーツーリズムやニホンジカによる高山植物への被害、登山者の排泄物による水質への影響など多くの課題があります。

今年は、「東駒ヶ岳開山200周年」、「南アルプス国立公園60周年」、「ユネスコエコパーク10周年」にあたります。この機を捉えて、東駒ヶ岳を始め、雄大な南アルプスの魅力を地域内外に伝えていくとともに、豊かな自然環境が100年後、200年後も大切に守られ、将来にわたり多くの人が登山や自然を楽しめるようにしていきたいと考えます。

開山200周年の大きな節目にあたり、山梨県北杜市と協力し山頂に「東駒ヶ岳」と「甲斐駒ヶ岳」の山名標識を設置しました。また山岳環境保全のため、携帯トイレの普及啓発や、ごみを拾うツアーを実施しました。

今日まで、ご協力いただきました皆様に、深く感謝を申し上げますとともに、南アルプスの自然環境保全に、今後より一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

東駒ヶ岳開山 200 周年記念事業実行委員会 実行委員長
伊那市長 白 鳥 孝

〈 駒ヶ岳開山のあらまし 〉

山梨県側からの開山

文化十三年(一八一六年)六月、信州諏訪地方出身の小尾権三郎(延命行者)により、横手村(現山梨県北杜市白州町横手)から開山されたと言われています。権三郎は文政二年(一八一九年)に若くして亡くなり、「威力不動」として各所で祀られています。彼の興した駒ヶ岳信仰は、弟子の行者たちによって受け継がれ、天下泰平・五穀豊穰・家内安全を願って各地から登拝されるようになりました。黒戸尾根の道中には、多くの石碑や石仏、霊神碑が遺されており、往時の信仰の篤さを垣間見ることができます。

伊那側からの裏山開山

駒ヶ岳の開山について書かれた「甲斐国駒岳開山略記」によると、小尾権三郎の死後五年後に、父・今右衛門らによって伊那側からの道が拓かれたとの記録が残っています。文政七年(一八二四年)に甲府代官所によって山梨側からの参拝登山が差し止められ、嘆き悲しんだ門弟たちは駒嶽大権現、摩利支天大菩薩、延命行者尊霊(小尾権三郎の御霊)に願掛けを行いました。すると、信州伊那郡入野谷郷白崩ヶ嶽(東駒ヶ岳)に登山するようにとお告げがありました。そこで同じ年、権三郎と共に駒ヶ岳を長く信仰していた増沢兵左衛門と父・今右衛門は、入野谷郷黒河内村(現伊那市長谷黒河内)の山奉行・黒河内谷右衛門に入山の協力を仰ぎ、地元の小松利兵衛の案内で伊那側からの登頂・開山を行いました。二〇二四年は、この一八二四年の伊那側の開山から二〇〇年にあたる年です。

東駒ヶ岳の特徴

東駒ヶ岳を象徴するのが、ピラミッドのような三角の山容と白い山肌です。これは山体が花崗岩という岩石でできていることによります。南アルプスの地質は、そのほとんどを海底の堆積物に由来する堆積岩からなりますが、東駒ヶ岳から鳳凰三山にかけての南北約20km、東西約8kmの範囲は、マグマが地下深くでゆっくり冷え固まってできた花崗岩が分布しています。この花崗岩体はその特徴によって3つに分類されてお

り、東駒ヶ岳周辺は、「甲斐駒型花崗岩」と「鳳凰型花崗岩」で形成されています。^{※1}(2つを合わせて「甲斐駒・鳳凰花崗岩」と呼ぶこともあります)この東駒ヶ岳をつくる花崗岩は約1,500万年前にマグマが貫入し、冷え固まってできたと考えられています。山頂部は花崗岩が風化してできた白い砂(真砂:マサ)で覆われていて、ザレ場をつくっています。また、風化した花崗岩やマサ中のところどころに、長石や石英を主とするアプライト脈を見ることができます。

「参考文献」
※1 藤本ほか 1965: 赤石山地北部の花崗岩類と糸魚川-静岡構造線。地球科学 No.76, 15-26
※2 佐藤ほか 1989: 甲斐駒ヶ岳花崗岩質岩体のK-Ar年代と岩体冷却史。地質学雑誌 Vol.95, No.1, 33-44



花崗岩の白い山肌



花崗岩中のアプライト脈

仙水峠の岩塊

東駒ヶ岳から北沢峠へ下ってくると駒津峰との鞍部のあたりで、花崗岩から黒～赤茶っぽい岩石に変わります。これは、元々あった泥や砂などの堆積岩に、花崗岩をつくる熱いままのマグマが後から入り込んだことによって、マグマ周辺が焼かれてできたホルンフェルスという岩石です。駒津峰から仙水峠の間の南西斜面には、直径数10cm～数mのホルンフェルスの岩塊が広がっています。

この岩塊斜面は、氷河時代にホルンフェルスの割れ目に入り込んだ水が凍結、膨張を繰り返すことによって岩が砕かれて形成されたと考えられています。^{※1}



「参考文献」
※1 飯田市美術館 2001 発行: 南アルプスの山旅ー地形・地質観察ガイドー



北沢峠ルートの状況



開山時推定ルートの状況

写真提供：花谷泰広氏



南アルプス保全と活用の時代

	2024	2014	2013	2008	2006	1980	1974	1964	1962	1959
・戸台パークブレイブ	・南アルプス国立公園指定60周年	・伊那側からの駒ヶ岳開山200周年	・南アルプスユネスコエコパーク登録	・北沢駒仙小屋を「長衛小屋」に、長衛荘を「こもれび山荘」に改称	・南アルプス林道バス運行開始	・南アルプス林道村営バス運行開始	・仙流荘建設	・南アルプススーパー林道着工・竣工 (1967～1979)	・南アルプス林道村営バス運行開始	・南アルプス林道村営バス運行開始

南アルプス開拓の父 竹澤長衛翁の時代

1954	1949	1943	1941	1930	1925
・黒河内森林鉄道建設・運材 (1939～1956)	・第一回長衛祭	・長衛荘建設	・南アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会発足	・南アルプス国立公園指定	・浦森林鉄道建設・運材 (1939～1964)

近代登山の時代

1912	1910	1907	1904	1903	1902	1892
・武田久吉、河田黙らが伊那側から駒ヶ岳に登頂	・小島鳥水著「日本アルプスの中で、現在の赤石山脈を「南アルプス」と紹介する	・小島鳥水らが駒ヶ岳から鋸岳第1高点到登頂。その後、仙丈ヶ岳・間ノ岳を経て荒川岳まで縦走	・ウオルター・ウェストン (1861～1940)	・赤石岳に登頂	・北岳に登頂	・駒ヶ岳に登頂

信仰登山・検分登山の時代

1881	1826	1824	1816
・高橋白山・伊藤瀬平が伊那側から駒ヶ岳に登頂	・三峰川を遡行し、仙丈ヶ岳に登頂	・権三郎の父・小尾今右衛門、増沢兵左衛門を始めとする諏訪の駒獄講の行者らが地元の小松利兵衛の案内で戸台から駒ヶ岳に登頂・開山	・小尾権三郎 (延命行者) が山梨県側の横手から駒ヶ岳に登頂・開山

南アルプス北部登山と観光の2000年

※本年表での「駒ヶ岳」は、東駒ヶ岳(甲斐駒ヶ岳)を指します